



障害理解、共生の一步に

みなみじま ひろか
南嶋 宏香さん(啓新高2年)

しかし、私はこれがただ掲げるだけのスローガンで終わってほしくないと思う。道を歩けば、点字の上やスロープに自転車が止められている現状から見れば、私たち個人個人における共生の意識はまだ低いように感じる。

私もそうだ。小学生の時、足を骨折し車椅子を使用する期間があったが、ショッピングモールに出掛けた時、病院では感じなかった奇異や同情の視線を感じ、初めて障害がある人の立場を知った。

まずは理解と共感から。スポーツは子どもから大人まで親しみやすい。だからこそ、この記事の取り組みが応援やボランティア、交流へと人々の心をかき立て、共生への一步となることを期待したい。

国体が福井で開催されることが決まり、県内外でマスコットの恐竜がいたるところに出現し始めてから数年がたつ。地元で大規模なスポーツ大会が開催されるのは県自体が盛り上がり喜ばしいことだ。

そこで、県は2020年東京五輪・パラリンピックに先駆けた取り組みとして、国体と全国障害者スポーツ大会の初の「融合」に向けた試みをしようとしている。そのインパクトは注目され、健常者・障害者の共生社会の実現へ近づくであろう。

